제595호 1911. 1. 8.

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

明治四十四年紀元二千五百七十一年
本紙定價 ▲一枚金二錢▲一ヶ月前金卅錢▲三ヶ月前金九十錢▲六ヶ月前金一圓八十錢▲郵稅一ヶ月十五錢
月曜日及び大祭日の翌日は休刊（日刊）
廣告料金 ▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲雜報欄特別廣告五號活字十七字詰一行金七十五錢
發行兼編輯人 高木久馬太
印刷人 松久神郎
京城西署西小門通（電話六六三）
發行所 京城新報社

民團議員改選に就

釘本藤次郎氏談

改選に就いての意見ですか實は此の間民長の忘年會の時に意見を述べるやうにとの話でしたが此の十日頃に發表するからといふので未だ選擧に關する私の立場を決めては居りませぬが怱卒の際ですから一寸思ひ付いたことだけ申上げませう此の東部の方は一體に眞面目の人ばかりで一向議員となつて盡瘁でもしやうと云ふ人は少いやうです私も本年辭退するといふことになりますと何だか妙に拗ねるやうにも思はれはしまいか或はいやに高く止まるやうにも思はれやうかと考へましたから一層やつて見やうかとも思つて居ます意見として纏めて申上げることは今一寸出來兼ねますが私が議員の末席を汚して見たいといふ理由は實は大に在るのですが先づ第一に居留地に於ける市街の改正です其內重なるものは即ち本町通りの切り廣げですが之は居留地の發展よりして內地人の財產を保護するといふ點より見ても凡ての點に就いて現在の繁榮を維持して發展せしむるに急要の問題だと思つて居るのです近き將來に南大門より哈爾賓への直通列車が出來る樣になりましたら歐洲人も定めて此處を通過することでしやうから其時に日本には人物のないといふやうなことを標榜するやうでは寔に遺憾ですから今度の選擧に當撰しましたら大々的目的の貫徹を期して居ります或は南山町方面では先づ南山町街路を改修するを先とすといふやうに聞いて居ますが之れは私は首肯することは出來ません必らずしも我田引水の議論を申し上げる譯ではありませんが實際本町通は市の主脳部で市の財產の三分の二といふものは此邊で占めて居るし何れの點より見るも先づ以て本町通の改修は他の町に就ても同樣の利益があることゝ思ひます黃金町まで通して町幅を六間半に廣げましたら此間の初荷の時のやうな雜踏も危險もないのみならず實に市の體裁から見て一日の急を要してると思ひますまあ經費はざつと五十萬圓位かかりますが之を市民に負擔させましても夫れ丈の利益は市民に有るばかりでなく其の金は現在市民の懷に這入るのですから決して無謀處の話じやない此の間も或る處での話でしたが半分の二十五萬圓は總督府から補助して貰いたいと話したら其れ位なら何とか成りそうなものだとの話でした逐次市區の改正は捨て置くことの出來ぬ問題ですが今申す通り本町の道路は是非とも先鞭に而して急速に着手せられねばならぬと固く信じて居ります其の外公園を擴張することや太神宮を立派に新築することゝ等もありますが先日皆川氏の意見にもありました通り公會堂學校等に就いても種々意見がありますが今日は是れ丈けにして頂きませう云々

●朝鮮の漁業

各漁業會社は孰れも大改良を施し盛に水產の富源を開發せんと計畫中なるが最近の調査によれば內地人及朝鮮人の各漁場に於ける比較を見るに內地人は一万六千六百四十四人漁船三千八百九十八朝鮮人は六萬八千五百二十人漁船一萬二千百十一にして人員漁船に於て遙に朝鮮人は內地人を凌ぎ居れども漁獲數は却て內地人多くして朝鮮人の總獲高は三百十三萬圓なるに內地人の總獲高は三百四十一萬八千圓なり而して朝鮮現在の漁業者は一哩平均十一人にして之を內地沿海の漁民に比較せば今後尚七十萬人以上の漁民を迎へて餘地あるを以て新に設立せられたる韓海漁業會社を始め各漁業會社にては移住漁村の計畫と共に明太魚、鰮、鯡、及び石首魚を專門として新春早々より大いに活動すべしとなり因に韓海漁業會社は一月中に第一回拂込を爲し直に事業を開始する手筈なりと云ふ

●補助滿期航路

今年度に於て補助滿期となるべき諸航路には大阪商船の木浦、群山、仁川、鎮南浦、安東縣寄港航路、阿波共同汽船株式會社の大連、安東縣寄港航路並に原田十次郎氏釜山、元山、鹽津、鏡城、清津、雄基寄港航路等ありまた明年度に於て補助滿期となるべき命令航路は日清汽船の上海漢口、漢口宜昌、上海蘇州、上海杭州、蘇州杭州、鎮江淸江浦、漢口湘潭、漢口常德鄱陽湖の九線、日本郵船の上海、北淸、朝鮮北淸浦鹽、本州北海の五線及び大阪商船の大連線にして以上の補助總金額は百五十一万餘圓也

●安東驛と圖書館

滿鐵安東縣事務所にては今年中に宏大なる圖書館を新停車場附近に新設し一般公衆の縱覽に供する筈なりと云ふが今日既に百卷以上の圖書を藏すれば圖書館新築落成までは當分事務所內に圖書室を設け一般の縱覽を許す事とせりと

山中鹿之助

第五十一回 西尾麟慶演

小賊どもが藤蔓を傳つて下て參りましたが四間ばかり下が切てありまして其處から下は下りる事が出來ないて左うかと云て上へ登る事も出來ずドーンと一人が落て谿の尾を突たから堪りませんグーと云て死んでしまふ跡から下た二人も何うする事も出來ず是も同じく腕が勞れてとう〳〵下へ落ち岩角に頭を打つけて死んでしまふ、古猪之助もモウ斯うなつては仕方がないと諦めて、何うせ多人數一度には降りては來まい、降りた奴を一人づつ殺して若し腕が疲れたら、切死致さうと覺悟を致して居りますと、三人が落て死んだから跡の奴輩は下りて來ません、其內に火は段々と盛んに燃え上りましたから、夫を防げと云ふ事で騷ぎ立ました、其機を得まして古猪之助二人を脊負て播磨街道へ出で、頓て備山の町に來つてホット一息つき、最早是まで來れば安心なりと、茲で二人を彼處より出まして是より先は都人が嫁入支度の綾に惣縫では人目に立まして却て宜しくないと、夫より古猪之助が古着屋へ參りまして衣類二三枚を買ひ大家の娘どもが伊勢詣か何かの支度に拵へ、今まで着て居た着類は之をたゝんで葛籠を買求め、夫へ入れて古猪之助は夫を擔ひで跡よりお供を致し泊りにつきました、先づ疲れを休める爲め一盃の酒を召まして、是より都の物語り大谷古猪之助が身の上話し等に時刻が移ります、跡よりいたして入り來る婦人、年の頃は廿一二にも相成らふと云ふ、艶めいた婦人が店へ參りまして 女『何うか御宿と願ひ度ふ存じます、宿屋の主人 主『お連は 女『連れは御座ひません 主『夫では折角で御座ひますが婦人の一人旅は泊る事は出來ません人と云ふものは其晩の內にアンナ事があるかも知れません、老少不常で急病急死をした時には何んとも仕方がない跡の掛合が面倒だから泊る事はなりません、と斷はりました、此時婦人は悄然として 女『御亭主さんの仰しやる處は御尤もでは御座ひますが、難儀を致しますから情を以てお泊下さいまし、主『ャ夫はなりません 女『其處がお情けで御座ひます…… 主『シテお前さんは何處までお出なさる 女『ハイ播州の上月へ參りまする夫が上月に居りますから夫を尋ねて參ります、と此話を二階に居て知らず〳〵古猪之助が聞きました、又九重姬腰元も其事の聞て下を見ますると、未だ年若ひ婦人で愛嬌あるものでありますから九重姬は不愍に思召して 九『彼を妾等の連として泊て遣りたいが何うだらう、と仰やる其處で腰元も古猪之助も然ば左樣致して泊ませうと、亭主を呼で其儀を話して 主『お前さん方がお引受なら泊めませう、と泊らせる事になりました是より旅は道づれと云ふので此の婦人を一ツ座敷に入れて四方山の話しに相成ります、夫より上月へは何う云ふ緣あつてゆくのであると云ふ事を聞きますると 女『ハイ妾は上月城の山中鹿之助樣の家來で横道兵庫之助と云ふ者を尋ねて參ります、と云ふ之を聞て一同大に驚き互ひに顏見合して夫とはなしに 古『其横道兵庫之助と云ふ人を尋ねると云ふが、御身は何う云ふ譯で尋ねられるか、苦しからずば話して聞されよ、と問はれまして彼の婦人も何んとなく面を赤めまして 女『左樣で御座ひます、妾は元浪花に居りまして、お恥しながら遊女で浮舟と申しまするもの兵庫之助とは深く云ひ交したもので御座ひます、三年を經ますれば播州上月へ來ると云ふ事を承知致しまして、依て親方を欠落を致しまして參りました譯で御座ひます、と云ふを聞きました九重姬も同じ思ひで御座ひますから、尤ど夫を思ひやりまして思はず涙を流す、稍あつて古猪之助を御覽遊ばして 九『世には似たるものもあるものかなとの事腰元も傍にあつて片頰に笑を含み 腰『姬君が是へ成らせられる其跡よりお家來の妻が尋ねて參ると云ふは、不思議の緣も御座ひますもの是も宿世の因緣ならん 古『ャア御婦人、何かは包まん是に成らせらるゝは、山中鹿之助樣の奧方九重姬樣

東京電報（七日着）

▲大久保大將伏奏　大久保軍司令官は今七日午前十時參內陛下に拜謁仰せ付られ駐箚軍の狀況に付伏奏したり

▲陸軍始め觀兵式　明八日青山練兵場に於て大觀兵式擧行常備各師團も夫れ々々に擧行する筈

▲消防出初式　昨六日消防出初式を擧行滿都の賑ひ云はん方なし

▲大驅逐艦進水式　新造大驅逐艦「山風」は來る二十一日長崎に於て進水式を擧行する筈

▲信越奥羽の大降雪　信越線及び奥羽線は過日來稀有の大降雪あり損害目下調查中なり

▲青森の大吹雪　青森は數日來の大吹雪にて被害多し

▲仙臺の大暴風　四日來大暴風にて仙臺附近一帶損害多し

▲露の秘密防備と獨　露國は昨今ナンガウベットとベルシングホールス間のバーロンタンド群島の東端なるレッスカー島方面に軍港工事を施す事に決し秘密に着々準備中なりしが此の事獨逸の探知する所となり頗る恐愕し居れりと云ふ該軍港はベレール軍港の東海岸にして芬蘭灣の最狹部にてロベール軍港外のテルゲン島北角とレンスカー島との間僅かに二十哩に過ぎず殊に沿岸の礁脈にして中央水道口約十哩水深三十尋內外にしてレンスカー島の北方には良好なる錨地あり又ロノラスコ島には清水を給用すべき小池あり芬蘭最良の軍港にしてロベール軍港と相對し軍略上緊要なる防備地點なり露國は此の一線を以て第一防禦線を劃し海陸相俟つて充分なる防禦手段を講せば敵軍優勢なるも容易に侵入する事能はざるべしと

▲長春のペスト　此程長春に肺ペスト發生當局は之れが防遏に全力を注ぎ居れり

▲滿鐵社債の好況　去る三日發行の滿鐵社債は意外なる好人氣にて六日締切を一日繰上げたる旨倫敦より來電ありたり

▲中西氏加害者捕縛　過般盛京時報記者中西正樹氏を傷害したる馬賊一名捕縛他の一名は目下嚴重に搜查中なり

▲東拓横暴の陳情　全羅南北道及慶尚南道の農業家資產家等連署して政友會幹部に對し東洋拓殖會社の横暴を訴へ其の改善に付長文なる陳情し來れるが內閣及び朝鮮總督府、議會にも同樣の陳情を爲す由

雜報

●李王世子御講書始　東京鳥居坂なる李王世子殿下には十二三日頃本年度の御講書始を行はせらるゝ筈にて櫻井御用掛等目下其講題の選擇中

●仁川に於ける總督　寺內總督は七日午前九時半南大門發列車にて出發午前十時仁川着久水府尹、各國領事愛國婦人會及官民六十餘名の出迎を受け夫れより各憲兵警察官の護衛のもとに仁川海岸通りを太神宮に參拜し終つて仁川府廳に至り官民一同に一場の挨拶ありて一般の視察を終り仁川民團立小學校に金二百圓實業學校に百圓府立中學校に百五十圓を寄付せられ學校長に對しては敎育上に關し訓示せられ午後一時發列車にて歸京せられたり

●師團交替期の確定　第二師團は四十四年四月五師團と交替すべしと傳へられたるが右は全くの誤報にて交替は來四十五年四月と確定せる旨其筋に內報ありたりと

●總督の記者招待　寺內總督は新年祝賀の意味を以て六日午後六時在京城各新聞社長、特派員、雜誌記者等を總督官邸に招待し晩餐會を催したり卓上寺內總督の挨拶あり續いて峯岸本社長來賓を代表して答辭を述べ終りに山縣ソウルプレス社長の發聲にてシャンパンを傾け總督の健康を祝し散會したるは午後九時なりし尚當夜出席の人々は來賓たる記者二十名の外山縣政務總監、明石警務總長、小松外事局長、兒玉秘書官、境警視等也し

●忠南地方の新年　忠淸南道地方の報によれば管內は引續き平穩にして更に事もあらざるが地方の鮮人は田舍の事とて多く舊曆を奉じ居れば陽曆の新年に際して祝賀を擧ぐるもの至極稀なりしも各戶は國旗を揭揚して賀意を表し又內地人との交際ある向きは年末年始の贈答品などを取換すのみならず其他にも勉めて內地人に交際を求め來るの傾向あり從つて其風俗習慣に倣はんとするに汲々たりとは眞に民心の良好なる進步と云ふべし

●大邱內地人の增激　大邱に於ける內地人の增殖は大に注目に値ひす最初同地に移住せし日本人は明治二十六年九月僅に二人に過ぎざりしが二十七八年日清戰役起るや我步兵二三箇中隊の駐箚ありて戰役後引續き京釜間軍用電信守備の爲め臨時憲兵隊を置かれたれど同三十六年までは移住者數十名を算するのみなりしも京釜鐵道工事の開始に引續き日露戰役の爲め多數の勞働者商人入込みたるにぞ俄然として人口增加し同年末には七十六人となり翌三十七年末には一躍して七百三十人となりたり以來年毎に增殖し四十一年より四十二年には夥しく激增し昨四十三年十月末日の調查によれば五千八百七十七人を算し是れに鮮人約二万五千を合すれば既に三万に達するの都會となるに到れり

●造林計畫成る　朝鮮に於ける造林計畫に關しては農商工部山林課に於て考究中なりしも如何せん林野の研究日尚は淺くして唯禿山を殖林するの大方針の外何等確實なる具體的の計畫を爲す能はざりしが今回林野の調查漸く成りたるより漸次總べての方面に對する經營方針も立案したる由にして朝鮮の森林は愈二十年計畫を以て施行するに決し其具體的の經營方針に關する詳細書も調製し了れりといふ

●母國貿易と朝鮮　四十三年中に於る內地の海外貿易は輸出入合計九億四千萬圓の巨額を示し空前の盛況を極めたり而して今其輸出入の差額を見るに僅かに二十万圓の輸入超過を以て終れりとて喜悅するものあるが焉んで知らん眞正の計算の上に於ける貿易結果は六百萬圓の輸入超過を呈したり則ち右總額は朝鮮との移出入を加算せるものにして移出千六百萬餘圓移入八百万圓ありたれば其移出超過額六百萬圓を以て他外國との輸入超過額を決濟し得たる譯なり日鮮貿易の一般貿易上に於ける價値は斯く甚大也と云ふ

●生命保險率引上　日露戰役後生命保險會社の增設と共に漸次其競爭激甚となり從つて各會社共多額の勸誘費を要し爲に比較的多數の被保險者を集め得たるに拘らず保險料との收支勘定上多くは費用倒れの觀を呈し設立古き大會社にては左程の痛苦を感ぜざるも新設會社にては到底永く其事業を繼續する事容易ならざる現狀なるを以て相互當事者の窮苦を救はんが爲と兼て本邦保險料率は餘り底廉に過ぎ今少し其率を引上るも敢て不可なかる可しとし三四月頃各會社共料金を引上げんとの議當事者間に相談中なりと

●英商油房計劃　既報英國リバープールの石鹸製造會社は石鹸製造用としての滿洲大豆に關し種々調查の末品質搾油量等の大豆產の他に比し頗る有望なるを確認したれば昨夏同會社社長は支配人を携へ實地に就き南北滿洲に亘り仔細に踏査する所ありたるが歸國の上重役會議にて協議の結果今回滿洲に一大製油會社を設立する事に決したれば何れ今春解氷を俟ちて工事に着手する都合なりと云ふ因みに設立地點は未だ確定し居らざるも多分長春奉天の孰れにか選定せらるゝならんと

●沿海州漁區競賣　露國沿海州に於ける本年度漁區競賣は愈々二週間を繰上ぐるに決定したるを以て近日中露國々有財產課より其調查せる新漁區表を發表せらるゝ筈なりと云ふ

●東拓社宅の落成　東洋拓殖會社は昨年秋以來慶熙宮の横手に於て社宅五十二戶の建築中なりしが今般愈々落成したるを以て各社員は約八日より移轉する筈なりと

●軍隊の年末賞與　朝鮮總督府管下の各官署にては併合の際增俸ありたるより一切年末賞與金を廢止したるが軍隊側にては其增俸も極めて尠少なる上に今回賞與金も廢止されたるの觀ありしが四十三年度末即ち來る三月頃師團乃至臨時派遣隊司令部の豫算の都合にて賞與あるべしと

大膽なる韓銀　韓國銀行は仁川の商人にて沿海漁船業に從事しつゝある秋田毅氏に向かつて最近數萬圓の無擔保貸附をなしたる由なるが右は同行營業振の大膽なるを證明するものなりと云ふ

●總督府文官敍勳　朝鮮總督府書記官從五位勳五等山邊勇輔氏は敍勳四等授瑞寶章を筆頭に同事務官神野忠武氏勳五等以下參事官及判檢事技師三十餘名の敍勳七日の官報を以て發表されたり

●同上文官の敍位　七日の官報を以て總督府文官の敍位左の如く發表されたり

敍正五位　從五位勳五等　平山銓太郎
敍正五位　從五位勳五等　膳鉦太郎
敍從五位　正六位勳五等　庵原文一
敍從五位　醫學博士　森安連吉

●敍任　明治四十三年十二月二十六日附を以て左の如く敍任ありたり

陸軍憲兵少佐從六位　三根昇一
任朝鮮總督府警務部長
陸軍憲兵中尉從七位篠原仁造、同辻本貞次郎、同中倉慶治、同坂本留市、同飯沼信夫、同鵜村衛吉、同村田正治、同園田主膳、同豊島孫治、同島田茂吉、同末松吉次、同大西政次郎、同野中政市、同小川徹朝
任朝鮮總督府警視（各通）
宮內省翻譯官正七位　武田尚
兼任朝鮮總督府通譯官（敍高等官七等）
陸軍二等軍醫從七位　井崎精一
任朝鮮總督府道慈惠醫院醫員
敍高等官七等
朝鮮總督府鐵道局技手
陸軍工兵少尉正八位　富田晳造
正七位　吉武正八
任朝鮮總督府鐵道技師（敍高等官七等）
藤堂景吉、切山篤太郎、新井胖
任朝鮮總督府判事（敍高等官七等）

●平壤慈惠醫院長　平壤慈惠醫院長蟻川亨氏は事務打合せの爲め六日入京せしが七日總督府を訪問せり

●街路擴張の概算　本町通りの市區改正は早晩唱へらるべき一問題にして現に舊臘の民會に於ても其議起り目下調査中に在り而して大体の概算によれば本町二丁目より八丁目に到る道程を約八丁とし其幅員現在三間を六間に擴張すべく故に擴張道路を坪數に換算する時は千四百四十坪となり之を坪三百圓平均に買收するとするも四十三萬二千圓を以て遂行し得べきなり現民團の程度にては之を敢行するに堪へざる程に非ざれば飽くまで必成を期せんと數圖ける候補者尠からず

●稅制調查員辭退　百三十銀行の菅原大太郎、三井物產會社の淺野長七兩氏は曩に古城民團長より民團稅制調查員を囑托せられたるが都合ありて今回辭退したりと云ふ

●民團管內の生死率　京城民團管內に於ける昨四十三年一月より十一月末日迄の出生死亡調查を聞くに出生八百九十三人內男四百五十六、女四百三十七にして死亡六百〇六人內男三百十五、女二百九十一なりと云ふ

選擧界の表裏

▲民長の選擧觀　來るべき選擧に對し古城民長記者に向つて語るらく予は如何なる人が當撰しようと敢へて不關焉なり唯だ至誠公に奉じ忠實なる議員諸君の翼贊を求め其職を完ふせんのみ豈に他あらんや云々

▲暗中の飛躍　現下の形勢は昨紙も所報の通り公然候補者として名乘り出で主張意見を翳ざして相搏つ時代に非ずして謂はゞ夫れから夫れと因緣手蔓を辿ぞり以て暗中飛躍を爲し居るのみ而して諸方に撰擧事務所の設けらるゝは十五日以後なるべし

▲吾社投票と人氣　吾社の豫撰投票は天聲人語的神聖のものにして不思議にも誰が見ても成る程さと思はるゝ人が毎に得票し如何はしき輩は忽ち消盡し去るも道理なり然れば何れも此豫撰に預るべく熱狂し古新聞の買ひ歩るき熾んなりとの投書ありたり

▲昨日迄の名簿閲覧　撰擧人名簿の閲覧は昨七日限となりぬ試みに民團備付の閲覧人名簿を執りて之を繙へし見るに小倉某を筆頭に三十三名を算せり今其閲覧者の系統を覗ふに驚く勿れ其內二十一名は小川勝平氏の派遣せる人々にして商賣上何人かの依托を受けたるものなり若夫れ眞正の閲覧者に對りては一人も之を認むる能はず而して權利擁護の爲めに供覧せる名簿は却て運動上の方便たるに過ぎずとは是亦選擧界の表裏を示めせる一現象たるべし。

民團議員豫選投票

民團議員豫選投票規定

一、京城民團民會議員適任者と認むる者卅名を有資格者中より選出する事
一、投票用紙は本新報に刷込ある用紙に限る事但し投票人は無記名とす
一、一枚の用紙に認むべき議員適任者の數は五人以內たるべき事
一、投票は本社前の投票函若しくは左の箇所に於ける本社投票函へ投入の事

本町一丁目　青木堂新築場前
本町二丁目　町田文林堂横
本町四丁目
花月通り　中村時計店横
本町六丁目 洋服商　灘山支店横
明治二丁目　日韓印刷會社前
南大門停車場　伊藤組出張所
龍山新市街
山下町　小杉組出張所
龍山舊市街民團役所出張所　會澤事務所前

右の外郵送及び直送の分は從前の通り本社豫選投票掛へ宛らるる事
一、締切は明治四十四年一月二十日とす但し日々に於ける投票の結果は日々の紙上に於て公にすべし
一、總開票は締切の當日若は翌日とす但其結果は本紙上に公にすべし
一、總開票立會人は追つて決定の上發表すべし
右以外必要の事は追次本紙上に廣告すべし

（七日締切迄の著票）

五百四十六票	山口太兵衛
五百三十五票	中村再造
四百四十八票	中島司馬之助
四百四十六票	和田常市
四百四十六票	釘本藤次郎
四百十八票	三好和三郎
四百五票	關繁太郎
三百九十四票	菅原大太郎
三百八十一票	大久保雅彥
三百七十八票	秋吉富太郎
三百五十二票	梶原末太郎
三百五十票	松永達二郎
三百二十七票	田村義二郎
三百二十五票	大村百藏
二百九十六票	田中始一郎
二百九十二票	大村保太
二百八十五票	深水清
二百八十五票	兼古禮藏
二百八十三票	曾我勉
二百八十票	進辰馬
二百七十八票	德久米藏
二百七十三票	前田熊市
二百七十票	石橋利三郎
二百六十八票	松浦源治
二百六十八票	原勝一
二百五十三票	執行猪太郎
二百三十五票	皆川廣濟
二百三十二票	石井新
二百十票	伊藤友松
二百一票	池田長次郎
百九十二票	淵上貞介
百六十七票	佐々正之
百六十五票	佐野彥藏
百五十五票	阪敬明
百三十一票	海津三雄
百二十八票	國井泉
百二十一票	大坪文吉
百十三票	益永十作
七十三票	白木爲次郎
六十四票	大橋清三郎
五十七票	井上孝哉
五十二票	古城亀之助

八票 西川通徹　三票 中西喜久男
一票 菅谷駒之助　同 鈴木謙之助
同 遠山熈

注意

前號に發表せし得點者にて點數の其儘なるものは本日の表に加へず尚本日よりは五十點以下の得點は新候補者以外は不掲載

▲京龍兩驛の貨客▼

▲南大門驛乘降客　六日の分
乘車客 六四六　下車客 六一七
乘車賃金 一、四九〇、四八
▲南大門驛荷扱高　六日の分
發送 五七噸　到着 四七九噸
貨物賃金 七九一、二一
▲龍山驛の乘降客　六日の分
乘車客 一五八　下車客 一七四
乘車賃金 一三六、三三
▲龍山驛の荷扱高　六日の分
發送 八七噸　到着 五九六噸
貨物賃金 一五、八九

▲京城手形交換高▼

一月七日　金高 一三五、六六五、七六　枚數 五八八

▲相場電報（明治町着電西村支店）

▲大阪株式（七日）

		（前場）	（後場）
神戶	寄	三九、四〇	三九、〇〇
電鐵	引	三九、〇〇	三九、〇〇
京坂	同	六二、三〇	六二、〇〇
電鐵	同	六二、一〇	六一、六〇
鐘淵	同	一〇八、四〇	一〇七、五〇
紡績	同	一〇八、二〇	一〇七、六〇
日本	同	（出來不申）	九八、五〇
郵船	同		出來不申
東京	同	一三一、七〇	一二九、九〇
株新	同	一三〇、五〇	一二九、四〇
大坂	同	一四一、八〇	一四一、四〇
株式	同	一四二、二〇	一四一、三〇
同直	同	一四〇、〇〇	一四〇、三〇
取引	同	一四〇、七〇	一三九、六〇

▲仁川米豆取引

▲六日後場一月寄出來不申▲二月寄九圓九十三錢▲止九十八錢▲三月寄九圓八十五錢▲最高九十八錢▲最低八十五錢▲止九十八錢▲七日前場一月寄出來不申▲二月寄十圓八錢▲止十七錢▲三月寄十圓一錢▲最高二十一錢▲最低一錢▲止廿錢

▲大阪期米

▲六日前場一月止十四圓四十五錢▲二月止七十九錢▲三月止九十一錢▲後場一月寄十四圓四十四錢▲止四十七錢▲二月寄七十八錢▲止七十九錢▲三月寄八十九錢▲止九十一錢▲七日前場一月寄十四圓四十四錢▲二月寄七十九錢▲三月寄九十一錢

▲治外法權▼

寺內總督の此頃は殆んど毎日なしで七草のれ粥が濟むと直ぐ仁川へ出掛けた、仁川の生命、夫れは築港であるのだ、總督たるもの須らく一肌脫いで仁川築港の爲に盡すべしだ▲曾つては故曾禰統監が散々仁川へ出掛けた、ソウして何時も仁川人士の御馳走になつては築港は乃公が引受けたと云つた樣な顔をして居たものだ、併し今になつて見ると仁川はツマリ曾禰子から御馳走の喰逃にあつたのだ▲尤も多くの仁川人士中には曾禰子と特別關係を附けて特種の利益を受けたものもあつた、ソレは餘人にあらず例の秋田毅と云ふ男だ▲秋田か如何にして曾禰子の歡心を得たかは今日に於ても疑問だ、併し何にしろ子爵はイツも下仁すれば必ず秋田の家に宿つたものだ、彼のハルビンから故春畝公兇變の悲報が來たときなぞも子爵は同勢と共に秋田の家で妓と戯れて居たのだ▲時世一變今や曾禰子と秋田との關係の如き關係は官民の間に跡を絶つに到つた、商人が弄花を勉強して體面を兼ねる要が無くなるに到つた、斯は官民が共に祝すべき事だ▲ト云つて安心して居ると秋田は此の頃其の辣腕を韓銀へ向け破產の狀態に在る身でドウかして木村理事を納得させ無担保で數萬圓を韓銀から引き出した、アー秋田と木村其の關係は恰かもドラ猫と二十日鼠の樣なものだ▲六日夜寺內總督の新聞記者招待會は中々面白かつた、何にしろ口手八丁づつの先生達が其の鋒鋩を總督に向けたのだから頗る賑やかだつた、時に總督は一舊句を思出したと云つて口吟んだ、曰く『あの聲は豫算の通る響かな』と、斯は之れ總督が貴族院へ出席したときヤッたものだソウだ▲サテ夫れからは皆さん一句ヅヽと云つて筆墨紙が廻された、第一番に筆を附けたのが宇都宮瓢哉で彼の句は『咲きにけり墓場の蔭に梅の花』次が大坂朝日の岡野で『花よりも梅干主義の政治哉』次が本社の去留で『梅干は旨い物では無いけれど熟のときには結構な品』次が山縣ソウルプレスで『月と梅併せて得たり御世の春』次が京日の吉野で『極城に及ぶ恵みや初日影』

活動寫眞　後面子

朝の南大門驛　七日

空はどんよりと曇りて雪にやならん、寒風を埋めし人の群に往來する大道は息も凍らん七日の朝ぼらけ一直線に驛へと進み入りし寂しき構內は暖炉の暖みに輕く座が揚る。

冷たき顏を手とは四方より暖爐に突き出る、果敢なき優勝劣敗は此にも實現するのか面白い、山本旅館の若者は汗ばんだ顏に五六のトランクを擔ひ來る、ちらと目に觸れしは麻生音藏との名で在る、農商工部技手、柳町番房と書いた行李は堺に立掛けて人の見へぬ、[illegible]行の美人は、甚だしく二圓三十二錢の小荷物を抱へて婦人世界を手にして乘込む、[illegible]英の途に上るべき京城駐在英國總領事ヘンリー、ボナー氏の出發である、十餘個のトランクには下關と赤紙が貼られて、見送りの婦人は構內に咲ならぬ花と咲かした、僕は私かに其の行程の平安を祈った。

午前九時二十分、南行の列車は此の人々を乘せて遠ざかった。

午前九時三十分、北行車も輕く滑出して、場面は茲に展開して、臨時列車は橫はった、見る、憲兵、兵士、巡査の[illegible]、[illegible]として構內に深刻の印象を止める。

官人も來た、某々大人も見へる、某將官も署長も來た、一輛の馬車は、前後數騎の兵士に護られて、威風赫々たる寺內閣下は來着せられた。

午前九時三十分、閣下の乘り玉ひし列車は○○方面に向ふべく驛に停車場を放れた、構內は人去り客散して、亦寂寞の裡に閉された。

●僞記者の化の皮　七日

午前一時三十四五の男西小門通り料理屋[illegible]に登樓し藝妓春子を敵娼に遊興し午前三時半頃酒肴料金二圓四十錢の計算書を突き付けられしに僕は新聞記者だから明日受取りに來れと云ふより[illegible]切掛には致しませんと云ひしに[illegible]を聞かせる者にあらずと云ひ[illegible]元日に大平町[illegible]の喧嘩ありしとき[illegible]しを以て該喧嘩を[illegible]主未永德次の嘆願を[illegible]る生意氣な事を云ふ出來ぬ樣にするぞ[illegible]樓主は何事ならんと[illegible]な客室に何故來た[illegible]警官出張鎭撫し所[illegible]不心得を諭し歸宅[illegible]とは詐稱にて某印[illegible]尾元次郎なる事判[illegible]きは該亂暴の際最[illegible]張を乞ひたるに管[illegible]行けと云はれたる[illegible]駈け付けし由なる[illegible]轄違ひなりとて[illegible]の當を失したるに[illegible]

●小人窮して亂す　元中之

新地料理店日出樓事增木鹿之助は中[illegible]なりし何時に是迄[illegible]變更するには夫れ[illegible]なりしより酌婦[illegible]きく(十七)が明治[illegible]齡不足なるをきく[illegible]役場の謄本及一般[illegible]妓の鑑札を受け何[illegible]なるを同業者の某[illegible]部署岸長野兩刑事[illegible]之助船場きくの及[illegible]あるを二十四年に[illegible]せきよの三人を引[illegible]の上一應身柄は放[illegible]局に送られしが該[illegible]にて取調の上鹿之[illegible]船場は微罪として[illegible]薄弱として不起訴[illegible]

●禍運者は誰（大賣出 大景品）

京城聯合繁榮會大賣出し抽籤會は既報の如く昨七日午前十一時より南山本願寺に於て執行し立合人として警務總監部員、南部警察署員、古城民團長、和田民會議長、山口商業會議所會頭其他各町有志、各委員及び京城日報、朝鮮新聞、京城新報の各社員立合の上嚴重なる監視の下に抽籤を行ひ別項廣告欄の通り當籤せり終りて一同巴州亭に於て立食の饗應あり席上油田長兵衞氏委員總代としての挨拶古城民團長の謝辭ありて散會せり

●元旦の伊勢參宮

例年元旦には神宮を參拜する者非常に多き例なるが本年一日兩宮に太神樂を奏したる者百三組、參拜者人員五千三百二十五名(內鮮人七名外人十九名)にして昨年の元旦に比し八百二十二名を增加し三ヶ日を通じ二萬○八十人に達したりと

●豐澤團八死す

二代目豐澤團八こと川勝岩次郎(五十)は二日午前十一時東京にて死去したり同人は大阪南區高津に生れ初代團八の子父の歿後二代目團八を襲名し二十五年の春頭東京に上り故綾瀨太夫に知られその後生駒、呂、柳、適、錦等の絃を勤め好評也き

●クツドロ　住所不定方仁榮(二○)は太平町二丁目鮮人雜貨屋にて靴一足及外數ヶ所に於て金品を窃取したる事西部署刑事に探知され目下取調中なりと

●菊正宗烟酒發賣　鐵道院にては大阪市東區伏見町五丁目安田安次郎兵庫縣武庫郡御影町菊正宗販賣部支配人嘉納源兵衞の出願に係る新案瓶詰酒卦械の盛熱湯に入るゝも破損の虞なく燗酒として使用し得る意匠を擬し鐵道の主要驛構內にて販賣する事を承認し發賣する事となり其代價は一合三勺入猪口は器械口瓶詰にて金十五錢なり因に主要驛にて發賣せんとするものは鐵盃を配付すとなり

日曜集會（八日）

●日本メゾヂスト敎會(旭町二丁目)同敎會にては八日午前九時半より日曜學校、聖書研究同十時半より禮拜說敎倘は木原敎師の『本多監督の公書を讀む』『天父の祝賀』傳道說敎あり

●日本キリスト敎會(旭町四丁目)同敎會にては午前十時より禮拜說敎及び平山牧師の『基督敎の七福』午後七時より傳道說敎同牧師の『基督信徒の社會に對する義務』てふ演說ある由

目ご耳（八日分）

●壽座　開演中大人氣なる市川鯉三郎片岡松十郎一座の八日替り狂言は前狂言鬼一法眼三略卷一條大藏鄕大庫より御所迄切狂言れ染久松新版歌祭文野崎村の段にて倘九日の狂言は前狂言魁難波戰記大序より血判取迄切狂言としてはいろは新助德庵堤なり

●浪花館　東京落語音曲手踊米枝一座

●舞歌伎座　初日より大入續きなる同座八日の替り狂言は前狂言加賀見山古鄕錦繪切狂言としては源平布引三段目實盛物語の段なり

廓のうわさ

▲翡翠の繁春、花月の福奴はともに猪年生れなりし爲め新年匆々新聞に掲載されしを甚だ緣起わるがり居候とか▲心得違ひの姐さん連なり▲井門の江戶ッ子藝妓政子の振つた座敷談は春永のお樂みにお預り申置候▲列の文の助の菊家方より新たに披露な仕るは仁川淺間にて賣れつ妓の一人として稅關の鬼を殺した八千代柏子、前非後悔とあつて名も秀香と殊勝らしく改め溫和しく座敷丈けを勤める筈に候、併し其の日〳〵の出來心はコリヤ別物でござんす哩▲次に同じき家より春枝と申して披露するは元永樂町幾代にて八重子と申せし柔和いた娘さんに御座候▲開進亭の小萬は新聞に褒めて掲して貰つたのが嬉しいとて遂に新聞が好きになり新聞はホントに世間に必要なものだッ夫れや惡く書かれる事もあろうが併し夫れは自分の方に惡い事があるからよ、と申し居候とか、モ一つ褒めてれ遣ー下されたく候との投書、イヤ感心〳〵(その字)

◀平民文庫▶

▲今日の平民文庫は仁川が嘛だ▲仁川花町綠湯附近にて良人は仁川停車場へ出勤し家は妻のれ何(三三)が一人小商賣をして居る良人は隔日の宿直なので其留守の晩には支那人を引入れて○○しているのを良人は知て居るのかしら(注意生)▲仁川淺岡の藝妓萬歲(二八)は娼賣柄にも似合ず狸の腹病に罹り居る事は粹撲先刻御承知の通にて最早袖でも隱せぬ岩田帶とかにて姉さん此のれ腹は如何したらよいてしようと相談をして手帳を繰返し指折り數へて見れば平家方にて隱れなき○○組の長淸さんに違いはないと昨今其交涉中との事だ(阿古屋)▲仁川海岸の或る役所へ出勤なさる大場○○○とか云ふれ役人は最早四十の坂を越した中老人なるに酒と女に身を持ち崩し花町邊の小料理屋は申すに及ばず先頭は良人ある者にけしからぬ事をしたとかにて大騷をしたそうだ其上家では每晩夫婦喧嘩をするので近所では大迷惑をして居るれ身分柄御注意なさらぬとれ爲めになりません(小使)▲貴新聞仁川支局には投書函は何處にありますか餘り見當らん樣ですが何んとか早く設けて貰ひたいもんだ(投書坊)▲投書函は今迄元朝鮮日々の函を使つて居りましたが近々の中に新に設備しますからどし〳〵投書を願ます(仁川係)▲仁川一富士の小富士は雪隱を七回ッ、掃除をするそうだろうしどんな願の筋があるのか知らぬが每日て其掃除中は如何なる人に逢つても口をきかぬたぶん一日も早く田の字さんの處へでも行きたいので臭い處へ願を掛けて居るのだろう(實見生)▲韓佛字典又はゲール氏の韓英字典御不用の方あれば讓受けたし當欄迄御通知下されば參上す(テー生)▲柔蓮の掛場を紙上に御記載下され度候(一讀生)▲大方の投書家諸君にれ願ひする小生知りませんから(係)

今明日運勢

△一月八日舊十二月八日六白先勝戊寅除△一白業務上疎漏失念を招く勿れ其他旅快欣の日大凡吉△二黑其他平行起業開店入門學△三碧凶諸事謹和の日なり△四綠盜害遺失負傷防ぐ愼の事金品授受計算帳簿證券の事故障起らんとす△五黃盜難不動產上の事謹愼若くは見合せの事△六白委任代理を挑發され易し人より咎疑にあふの恐れあり他は進んで吉△七赤中傷若くは誣妄及軋轢競爭にあふあらん證券帳簿の故障起り易し他は進んで吉△八白計算金品授受故障起らん其他會心の日大抵吉△九紫知己の事世話係累あり學事療病の以外大抵見合せ若くは手控への事

△一月九日舊十二月九日七赤友引己卯滿△一白轉住轉業模樣方針替凶其他進んで吉△二黑家族家庭上多少の煩累煩鎖あり外誘懇願斥くべし其他吉△三碧交際取引上間違破綻起らんとす不動產の事起業開店旅行に忌む雜築農業に吉△四綠厄運日殊に盜難橫領負傷衞生に留意の事組合婚談共同連帶連盟の事進んで支障無し△五黃貸借金談保證裏書謹愼の事其他萬事進んで吉△六白音信若くは業務上に多少の紛駁あるべし轉業轉宅改革整理談判分離模樣方針替に吉△七赤新事婚談旅行見合せの事自他の口舌の禍難を畏れ愼しむべし△八白人のため出捐出費ありとす貸借金談効果無し其他吉△九紫齟齬間違多し殊に金品授受設計目論見起工起業貸借賣買尤も注意の事（本町五丁目三一館判斷）